論説

大名鳥居についての一考察

―大分県下各藩の特徴―

高原三郎

一　まえがき
二　一覧表と分布図
三　考察
四　結語

一　まえがき

筆者は年来、神社に関心をよせて資料を集めてきたが、昨年、祭神名等については、拙著「大分の神々」としてまとめて発表した。また昨年来、県史編纂の嘱託となり、郷土史料に毎日接することになった。その中で、鳥居銘について特別の興味をもって、全県資料の蒐集、読解、整理に当っている。本稿はその中間発表の一環をなすものであるが、不十分なままあえて公表することにしたのは、一つには先輩諸賢に御教示を仰ぐため、二つには洩れている資料の各方面からの補充を期待してのことである。

鳥居の調査研究を続けていて、現在筆者が強く感じているものを断片的に記してみると、次のようである。

1　鳥居は神社の門であり、日本人にとって親しみ深い、すこぶる普遍的な存在である。

2　鳥居には寿命があり、木造はおおむね五十年で、石造は約百年前後で補修が必要なようである。

伊勢神宮はすべて木の神明鳥居で、二十年毎の式年遷宮のとき全部新造される。千歳村の平尾社御旅所の石鳥居には観應二年（一三五一）の初建から、文化七年（一八一〇）までの四百六十年間に、五興建されたことが綿密に刻銘されている。しかし、後出「48」や「84」などのように、三百五十年、或は百八十年を経ていても、泰然たるものもある。

3　敗戦と共に神社は一般に不振となり、鳥居の頽廃が甚だしい。その補修も不行届きになりがちで、由諸ある鳥居の数々がつぎつぎと無残な姿となり、また形を滅しつつあることは遺憾である。代って新しいものにはコンクリート鳥居やビニールパイプ鳥居が現われつつある。

4　大分県は全国に誇る石造美術の宝庫であって、国東塔をはじめとして多くの優秀な石造物があり、その調査、研究、保護が進んでいる。然るに、鳥居に関しては遺憾ながらあまり関心がはらわれず片手落ちの感が深い。今にしてこれを保護し、記録しなければ、悔を後世に残すことになるのではないかと憂慮している。

5　鳥居銘は古文書同様に正確な史料として価値があるものである。

6　鳥居に関する調査や研究の記録は非常に少い。県下のものでは、次のようなものが有力なものである。

(1)　史蹟名勝天然記念物調査報告書の中の故日名子太郎氏の記録。

(2)　故河野清実氏の「朝来村郷土史」と「鳥居巡拝記（昭和十六年豊州新報）」

(3)　酒井富蔵氏の「国東半島の石造美術」

(4)　武石繁次氏の「日田金石年表」

なお、最近出版の市町村史（誌）に鳥居銘の記録が行われてきたことは同慶にたえない。「千歳村史」「国東町史」等はその代表的なものである。

つぎに、現在筆者の手もとに集った鳥居調査票は三千を越えたが、これについては、(1)高文連社会部を通じての調査、(2)郷土史研究家から提供された資料、(3)郷土史料等からの抄出、(4)筆者の実地調査等によった。前二者については、多くの方

々の御協力、御教示に與ったことを、この機会に心から感謝の意を表するものである。本稿はその中で集った九十一基の大名奉納の鳥居を取扱ったものである。この研究の一つの動機となった河野清実氏の巡拝記にあげられた十数本からすると、約五倍の数を挙げ得た。が、まだまだ残されたものがあると予想されるので、御教示を仰ぎたいと願っている。

二　一覧表と分布図（後掲）

1　第一表　九十一基の大名鳥居を各藩別年代順に整理した一覧表である。

現状のらんの符号、○は現存しているもの、△は一部が残存しているもの、×は現存していないものである。

註　「1」「2」は異論もあろうが、少くとも大名鳥居の先駆という意味でここに取上げた。また「7」「9」「31」「36」「45」と「(17)」の五基も大名に準ずるものとして取扱った。

2　第一図　大名鳥居九十一基を現在の市町村別にみた分布図である。

3　第二表　各藩毎、年号別、材料別の一覧表である。符号の・印は木鳥居、○印は鉄鳥居であり、無記号は石鳥居である。

4　第三表　各藩毎に奉納された神社の主神の系統神別の一覧表である。

5　第四表　杵築領の奉納者でない藩主名が出ている鳥居一覧表である。

6　第五表　藩主を祭神とする神社の一覧表である。

三　考　察

1　第二表の考察

県下で、天文以前の室町期の銘のある鳥居で記録されたものは十一基で、銘はないがこれに比定されるものが若干あるよ

うである。大名鳥居については、江戸時代に入って第一に所見できるのは、慶長、寛永期に一つのピークが見られ、木鳥居と石鳥居がほぼ並行した時期のようである。第二は寛文頃から元禄にかけて石鳥居の盛行期に入り、元禄が大名鳥居の最盛期となる。元禄以降になると大名鳥居は少なくなり、代って庄屋等の名が多く見られるようになってゆく。

2　第三表の考察

最も顕著な現象は八幡宮が大名鳥居の半分近くを占めていることである。八幡神は全国的にも最多の系統神であるが、その武神としての神徳が武家の棟梁としての大名に最もふさわしいものであるからであろう。宇佐神宮、柞原八幡、日出の若宮八幡等には、特に数多くの立派な大名鳥居が奉納された。

次に多い天満宮は菅公を祀るものであるが、元禄以降の文運興隆と、幕府や大名の文治政策への転換に伴って普及したものである。

次に、住吉、三島、早吸日女、琴平等の海上守護の神々には、海路参勤交代をした大名達が、海上航海安全を祈願して奉納したものである。殊に「33」・「36」は海難の時、この神を念じて救われたことへの報賽の為の建立である。

3　第一図の考察

山香町、日出町が最も密集しているのは、木下侯の奉献に負うものが殆どである。その他では、府内藩、杵築藩、宇佐神宮、佐賀関、城原、森、臼杵等が小中心となっている。

4　第一表の考察　　各藩の特異性について

(1)　大友氏

約四百年にわたる豊後支配と、その周辺諸国への進出を通じて、大友氏の敬神はかなりなものがあったようで、神社の沿革や由緒等にしばしばその名が記されている。ただ宗麟が天主教を信ずるに至り、社寺に対しての圧迫や破壊が甚だしく、悪名を後世に残した。然し、これについては、島津氏の侵入の時の兵・火の災と混同されているとの同情説もある。

「2」は珍しくもその宗麟の奉献である。八津島社の城内貞彦宮司の話によると「宗麟の後室関係者に辻間の出身の女性がいて、その情報では、宗麟はその氏神の善神王だけは大切にするとのことであった。八津島神社の祭神は八王子神であるが、境内末社に善神王社があるのを幸いに、本社を善神王社と称した。」という。

宗麟はこの石鳥居の外、同時に神額及び石狗犬を奉献した。この石鳥居は現在倒壊しており、十数片となり社前参道横に積んである。柱は三本の継ぎ柱であった。

「1」は大友氏中興の英主と称される第十代親世建立の四角面取柱である。（河野清実氏によれば改造されたものであるという。）西寒田神社の現位置への移転もこの親世によるものであると伝えられる。

(2) 藤北氏

「3」は河野清実氏や「大野郡神社大鑑」によれば創立当時のままといわれ、藤原朝臣沙彌善忠は大野郡鎧ケ嶽城主藤北丹後守親載公のことであるという。親載を増補訂正編年大友史料三二によって調べてみると、大友田北氏第十代親載に当るようである。とすればこれも(1)にふくめてよいと思われる。

(3) 加藤氏

「4」と「5」とは肥後熊本の城主であった清正とその子忠廣の建立である。清正はこの外、早吸日女神社へ神領五十石を寄進し（天正十八）、總門（慶長九）を造立している。これによって、当時はまだ木鳥居が盛行していたことが推測され、また、佐賀関港が風待港として利用され、その鎮守早吸日女神社の神威の高かったことを感じさせてくれる。敬神の念の厚かった清正は、肥後街道を中心として県下に錦山社、清正公祠として祀られ、いまなお篤く崇敬されている。

(4) 細川氏

慶長四年、丹後田辺城主細川忠興に、飛地として国東、速見二郡が加増され、杵築城代を置いて支配した。関原役の後、忠興は小倉、中津に移ったが、杵築城代はそのままであった。更に加藤氏国除の後、寛永九年肥後熊本に転封。前後二十一

年の長期間杵築城代であった長岡興（奥）長は忠興の末子で、慶長の津波で壊れた奈多八幡を再興し、宇佐八幡の行幸会を復興する等神祇崇拝に尽力した。

「9」は驚いたことに肥後転封後十年たって旧領に建立したものであり、国東半島の銘のある鳥居のなかで最古のものであるという。

細川忠興は中津城に隠居した後、宇佐神宮の再興に鋭意努力した。自ら「6」の大鳥居を奉納したのをはじめとして、喧嘩祭で有名な大神興等公のゆかりのものが今も多く残っている。後述する如く、「47」はこの時忠興の女婿日出の木下延俊が造立したものである。

「8」の石大鳥居は、山田宇吉氏の「早吸日女神社考」によると、千石船に積んで伊豆国大島からとりよせた周囲六尺、継目なしの長さ七間の柱で、地表三間半、地下三間半ということである。この鳥居銘は「永奉為肥後太守源朝臣細川忠利武運長久並子孫繁茂造營焉」である。

また、「8」と「10」とはいずれも開きに対し背高のスマートな感じを與える構成である。

(5) 竹中氏

竹中重利は府内に封ぜられると、府内城や城下町を建設すると共に、春日神社を再興し、「11」の鳥居を社前に建立した。柱に銘なく島木の底面に文字が刻まれている。宮本宮司の話では「古いうえに、宇佐鳥居の特長をよく現わしている」とのことである。

(6) 松平忠直公

宰相松平忠直公は五千石を賜わって豊後に閉居したが、神仏信仰は深く諸寄進が多い。「12」は「材木出大阪調代銀五百匁」と記されている。

(7) 日根野氏

吉明公は初瀬井路の建設や、山彌長者取潰しで有名な人である。安部碩田の「柞原八幡宮志」に「参道に五の石鳥居あり。一柱倒壊。」とあることから考えると、「13」は「15」と「24」との間に立っていたものではないかと思われる。

(8) 府内松平（大給）氏

府内松平氏は敬神の念が篤かったようで、大名鳥居の奉献においても一異彩を放っている。

柞原八幡社と浜の市との間の参道に「19」（御旅所）、「17」（一の鳥居）、「23」（二の鳥居）、「24」（三の鳥居）、「15」（四の鳥居）と、大給氏奉納の大名鳥居が並び立っていた状態はまことに壮観であったと思われる。現在もとのまま残っているのは、「22」、「23」の二本で「24」は完全になくなっている。

「19」は次の銘のように、右柱は旧のもので左柱等は補修されたものである。

右柱銘「従五位下松平主膳正源朝臣近房建焉」

左柱銘「寶暦己卯先世所献以嘉永甲寅之災傾頽僅存壹柱

今補不足修之爾

文久二壬戌八月　従五位下源朝臣松平左衛門尉近説」

「17」は倒壊し、そのあとにコンクリート鳥居が立ち、もとの「17」は柱一本だけが本社に運ばれて残存している。その銘は次の通りである。

「正應之比為野火断壊而経歴星霜矣

粤継絶興廢再營者敬標懐仰

神徳鬼禱豊登之微誠畢　」

「正應（一二八八ー一二九二）の比（ころ）、野火の為に断壊して星霜を経歴す。粤（茲）に、絶（絶）を継ぎ廃を興して再營するは、敬（つつし）んで神徳を懐仰し、豊登を鬼（懇）禱するの微誠を標（しめ）し畢（おわ）んぬ。」と読む

のではなかろうか。

なお、「22」の鉄鳥居は、大分市の指定文化財となっているものであるが、全国的にも珍しいものであり、津村勇氏の「鳥居考」に紹介されている。これは幕末における駄の原地方に栄えた鑄物師の技術と実力を示すものとして注目される。

「16」と「25」とは共に年号表記は昭和二十三年国有境内地拂下申請書の通りであるが、両者とも大名名は現物にない。「25」は「鳥居巡拝記」にも大名名が記されている。神社関係者が語り継いだものである。

(9) 奥平氏

県下一の十万石の大藩であり、「たにし祭」で有名な奥平三所神社に藩祖を祀る祟祖の家でありながら、大名鳥居では僅に「26」のみである。親藩であるが、表高に比し、ないしょは苦しかったという声がある。なお、耶馬渓町史記載の根據については確認ができなかった。

(10) 中川氏

奥平氏につぐ七万石の岡城主であり、入山公（第五代久清）の大船山執着と城原社尊崇が目立っている。「27」と「28」の直入郡誌の記事は、北村清士先生の御教示で、享保十三年五月の町寺社奉行と、仝年八月郡奉行の書出帳面によることが判明した。「29」「30」は「農民一揆史料」によるもので、赤嶺重信先生の御教示によった。また、「28」については、松岡実氏の「九重山の山伏」（県地方史）に詳細である。また、城原社の橋爪春海宮司からも資料を提供していただいたが、これによると「藩政時代の城原社はその造営費を全く藩に頼っていた。」という。

なお、山部の直入地方は、浦部の蒲江町と並んで古式に則る立派な木鳥居が多いようである。

(11) 時枝領小笠原氏

細川入城前の中津城主黒田氏は、当時まだ戦国の時代であったし、その後の中津城主の前と後の小笠原氏は両者ともに失政が多く、大名鳥居は見当らない。五千石の旗本として家名を残した時枝小笠原氏は、江戸住いで施政は目代以下に任せき

り、現地に姿を見せなかったといわれる。菩提寺芝原善光寺を大切にしたことと、「31」の石鳥居がわずかにその宗教政策の遺物である。

(12) 杵築松平氏

徳川親藩の杵築松平氏の祖先は三河国野見里を領していたので野見松平ともいう。野見松平五代重忠は元和八年（一六二二）、出羽国上山城四万石に就封。第六代重直は寛永三年摂津三田城に転封、寛永九年（一六三二）安心院町龍王城主となり「32」を奉納、寛永十六年（一六三九）高田城を経て、正保二年（一六四五）杵築城に入る。杵築松平初代英親は、五十年を越える長い藩主として、藩の礎を確立した。「33」は元禄元年の播磨灘での遭難救助への報賽である。「35」は杵築藩雨乞の霊場の白石社への奉納である。同社については「大分の神々」P三五八以下に詳細に紹介したので参照されたい。

「36」は、天明四年第五代親盈が海上で難風に遭い、讃岐琴平宮の神徳により救われた報賽に金刀比羅宮遥拝所を設け、鳥居を奉納したものである。この鳥居は、その後売却されて別府市に運ばれたが、破壊し、現在その断片が北鉄輪の天満宮境内に残っている。その銘は河野清実氏によると次の通りであるが、□をつけた字は、現在見当らないものである。

「彼讃之山　神之依正　洞穴天門　爰望爰祀
神之格恩　於戲維通　始之右誠　錫嘏孔皆
從五位下松平對馬守源親盈實母
松平房之助源　親　實　」

なお、杵築松平氏について特記すべきことがある。杵築市史P四五三に、お殿様の長寿と隆盛を祈願し、五穀豊穣病難消除を願う「殿様まつり」が文政十三年以降明治維新まで続いたことが紹介されている。また、藩の鎮守の若宮八幡宮には、寛永廿年に、旧領地の出羽国最上郡を生国とする宮林三郎兵尉宗次が鳥居を奉納している。

今回の調査で、藩主名、分地の領主名が明記されたものが十三も出てきた。第四表はそれを一覧表にしたものである。

この外、固有名詞は出ないが、「御領主御武運長久」などの語が杵築領の鳥居に見られる。これらについて、筆者は、はじめは封建君主に対する儀礼的形式的なものと考えていた。しかし、他藩領の鳥居銘にこれに類するものがほとんど見られないことが明らかになって、やはり杵築松平氏の民政が成功し、領民が藩主に対し親近感を強く持っていた証拠と考えるべきであるとするようになった。

(13) 稲葉氏

勤倹節約の徹底で知られた臼杵藩であるが、神祇崇拝には努めたようである。幕末期の天保六年、伊勢参宮のできない神宮崇敬者のために、白馬渓に大神宮が勧請された時、當主幾通（十三代）侯と、隠居して江戸にあった雍通侯（十一代）が各々石鳥居と神殿の額とを奉納している。

余談であるが、この二本は、額束があり、柱に少しころびがあるが、貫が柱外に少ない神明類型鳥居である。後で同社に合併された山神社の石鳥居を移築したが、貫の柱外に出ている部分を、わざわざうち落して神明類型にしてあるのを興味深く拝見した。

(14) 毛利氏

毛利氏の大名鳥居については、二つの注目される事柄がある。

一は、森藩久留島家から養子に来て、中興の英主と言われた第六代高慶（はじめは高定、中ごろは高寛）で、公は藩祖高政の霊廟を営んだ外、領内の社寺の創立、改建等に努め、敬神仏崇祖の念が強かった。増村隆也氏の「佐伯郷土史」によると、「41」は「幼時森の鎮守妙見社に城主となるように願をかけ、成就のあかつきには鳥居を奉納すると約し、事成って報賽した。」という。バランスのとれた荘重な鳥居である。「41」「42」ともに生地森に建立されている。参考として挙げたように、京都吉田家に請願して、佐伯藩の鎮守五所明神の大鳥居に神額を掲げた。

二は、第八代高標で、有名な佐伯文庫の蒐集者であり、「43」と「44」とを佐伯市内に建立した。漢籍に明るかっただけ

でなく、敬神の念もまた篤かった現れであろう。

(15) 久留島氏

小藩の故をもって城持ちを許されず三島神社（いまの末廣神社）を建てて城に代えた久留島氏も敬神に努めた。

「45」は「岩室の殿様」といわれた藩主の弟の奉納であるので、ここに入れた。

「46」は参勤の海上安全加護を祈るため、藩港小浦に勧請した住吉社への奉納である。

(16) 日出藩木下氏

(17) 立石領木下氏

日出木下氏四十本、立石木下氏五本、計四十五本に及ぶ大名鳥居は、今回集まった九十一本の約50％の驚くべき数であり県下の大名鳥居の圧巻である。

その主なるものを紹介すると、

「47」は、前出のとおり、細川忠興の宇佐宮大復興に当り、その女婿の日出初代延俊の奉納である。享保年間第三代俊長文政三年第十四代俊方によって修理され、更に昭和十六年の大造営の時大修理をされたが、今なお本宮西大門前（若宮社の上）に堂々と屹立する宇佐鳥居の最典型的なもので、県重要文化財（昭和四十四年指定）である。

「48」「49」「50」は初代延俊の奉納したもので、この三本のみは豊臣が豊富と書かれている。これは豊臣縁故の木下氏が、徳川将軍家に対して、はばかる所があってのことではないかと推測される。

「51」から「75」までは、第三代俊長公が奉納したもので、実に最高の二十五本という数である。

「82」は申請書には俊長公とあるが時代もあわず、柱銘には見えない。氏子の伝承では俊長公夫人の建立であると伝えている。

次の第四代俊量公も「76」から「81」までの六本を奉納している。

日出藩の鎮守の若宮八幡社には、「48」「49」（Kの愛宕社）「79」「84」と四本もの堂々たる荘重な大名鳥居が並び立って、まことに壮観である。ことに西参道一の鳥居の「84」は、第十一代俊懋（マサ）の奉納で、大名鳥居らしい内容と外観と伝説をもっている。その漢文銘は辻治六氏により、川崎村史に次のように読まれている。

「俊懋否徳にして祖考の後を嗣ぎ、后時、日出に民の父母と為り、以て華表を作る。厳粛たる神明、余の心を憂恤して、茲の民を眷顧せられんことを。」

これらの石鳥居は若宮社の北の谷間を越えた川崎村の丘陵崖から切取ったと言われ、青木久氏宅の庭などにその後が今も残されている。佐藤暁氏や江口節子氏から聞いたところによると、「この石材は、米俵を敷いてつくった平面の上に厚板を並べ、その上にコロ（丸太）を置いて、大人数で引っぱり上げたという。また地上の高さ三間一尺と同じ長さが地中に埋まっていて、如何なる大地震、大風にも微動だにしない。」ということである。

「85」の柱の銘文は「雨暘時若海無厲風神之佑民視薾田功」とあり、「雨暘、時に若（したが）い、海に厲風無し。神の民を佑（たす）くる、薾（なんじ）の田功を視る。」と読まれる。惜しいことに倒壊して数箇の断片となって空しく積まれている。銘ある柱だけでも建てて、先人の神祇に対する祈願を偲べるようにしてほしいと思う。

また「90」には「祈武門昌盛子孫繁茂而已」との文があり、鳥居奉納の願意を適確に表現している。

次に、これらの鳥居には奉納者の官氏名がまことに大時代的に表現されていて、大名鳥居らしいものがある。以下その代表的なものを紹介する。

「62」―日出城主従五位下行木下氏右金吾校尉豊臣朝臣俊長

「80」―日出城主従五位下守右金吾次将豊臣姓木下氏俊量

「85」―従五位下朝散大夫飛騨守豊臣俊程

殊に日出藩の表は、まるで官位表現例の展覧会の観がある。以下の用語の若干の解説を記す。

金吾ー漢代の官名執金吾の略。我国衛門府の唐名。
校尉ー支那武官の名。
右衛門大夫ー右金吾校尉と同じ。
朝散大夫ー朝官のみにして、その職掌なき大夫をいう。我国にては従五位下の人にあてて用う。
行ー位が高く職が卑しいことを現わす語。
守ー位が低く職が高いことを現わす語。

最後に日出、立石両木下家が異常に多い鳥居を奉納した理由は何に基くのであろうか。津島の大庄屋の後である城内忠一郎氏や、若宮八幡や八津島神社の宮司城内貞彦氏等の御教示を含め、次のような点を列挙してみた。

1　木下家の歴代がいづれも敬神崇祖の念が厚かったこと。特に初代延俊が宇佐神宮や日出若宮等に四本の鳥居を献じて武運長久、国土安穏を祈ったのが例となって後に子孫が次々にその数を増したという。

2　金山や七島藺などの特種な隠し財源をもち、小禄高に拘らずないしょ(財政)は裕福であったのではないか。或は幕府からの御用仕事の仰せ付けを避ける手段として鳥居を建立したのではないだろうか。

3　三代俊長公は横津神社に神とまつられているほどの名君で、今なお領民の子孫から敬慕されている人であるが、性来虚弱、或は業病持ち（結核か？）で、神に健康と延命とを特に祈願するため奉納した。

4　日出町豊岡の覚正寺は門徒一千戸をこえる浄土真宗の大寺で、遠く山香町上村方面にまで壇家が多かった。日出藩は森藩領にある覚正寺への門徒の寄進を喜ばず、山香町内川野に法照寺を創立して、強制的に所属変更を計画した。約三百戸が長い間これに反抗し、甚だしい時には一揆に近い事件もおこったという。

この例から考えられることは、仏教寺院を通じての統制が必ずしも成功せず、神社の氏子を通じて人心収攬を計画的に行ったのではないかということである。

5　日出地区殊に豊岡地方は九州でも有名な墓石製作業者の多い所である。石材と石工に恵まれたことも一つの條件ではないだろうか。

挾間町の平野秀雄氏の話では、一か所で同時に十七組の鳥居用石材を掘出した記録を見たことがあるという。

四　結　語

各藩とも敬神崇祖に努めたが、その実相は想像以上に隔差が甚だしい。大名鳥居を通じてみる限り、「所（藩）かわれば品（鳥居）かわる」と言うことが出来、興味深いものである。

（大分市舞鶴町一―七―一五　大分県教育庁総務課県史編纂嘱託）

第一表　大名奉納鳥居一覧表

(1)　大友氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
2	2	△	「永禄第七歳甲子八月廿八日」	1564	石	八津島神社（善神王）	日出町辻間	「大友宗麟公鳥居を辻間善神王に奉納」	神社仏閣萬旧由来記
1	1	○	至徳三丙寅十一月吉日（北朝年号で、元中三年）	1386	石	上津八幡神社	大野町片島	大願主藤原朝臣親世	
	参考	×	「建久七丙申年」	1196		熊野神社	大分市津守	「大友能直九州鎮護ノ為、本社……鳥居……悉ク営造」	神社明細牒の由緒書

註　(1)（参考）は同社の由緒書により記した。能直は豊後には入らなかったという説が有力な今日、これだけでは裏付困難で取り上げることは遠慮し、参考として記すにとどめた。また2は、河野清実先生の巡拝記に「三段の継ぎ柱で室町時代と推測されたもの。今十余片に断裂して参道横にあり」とされたものである。

(2)　×印は現存しないもの
　　○印は現存するもの
　　△印は一部残存のもの

(2)　藤北氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
3	1	○	寛正三年壬午十二月初七日	1462	石	上津八幡神社	大野町片島	藤原朝臣沙彌善忠（大野郡鎧ケ嶽城主・藤北丹後守親載のこと）	大友田北第十代親載か　大野郡神社大鑑

(3) 肥後藩加藤氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
5	2	×	「寛永元年四月」	1610	木	早吸日女神社	佐賀関町須賀	肥後藩主加藤清正	町史
4	1	×	「慶長九甲辰八月」	1608	木	早吸日女神社	佐賀関町須賀	肥後藩主加藤忠広	町史

(4) 肥後藩細川氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
6	1	×	「慶長十五年十月二十五日」	1610	木	宇佐神宮	宇佐市宇佐	「中津城主細川忠興宇佐大鳥居御造立」	宇佐宮年代記
7	2	×	「寛永四年」	1616	石	奈多八幡宮	杵築市奈多	「城代長岡興長・白銀三十六貫目を寄附し、社殿…石鳥居…を造営す」	国東半島史
8	3	○	寛永十七庚辰年六月吉日	1640	石	早吸日女神社	佐賀関町須賀	肥後太守源朝臣細川忠利	「二」 町史
9	4	○	寛永龍集壬午春吉辰	1642	石	奈多八幡宮	杵築市奈多	長岡佐渡守豊臣氏興長	興長（興長）は忠興の末子 「五」
10	5	○	元禄九丙子年九月吉日	1696	石	木田神社（日吉）	大分市坂の市	細川越中守綱利	

註 備考「 」内の数字は大名の歴代を示す。以下同じ。

(5) 府内藩竹中氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
11	1	○	慶長十八年六月二十四日	1613	石	春日神社	大分市春日町	「府内藩主竹中重利が石鳥居奉献」	大分市史

註 島木に「慶長□八年六月二□□日神守…九州…大□原…」と見ゆ。

(6) 松平忠直公奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
12	1	×	「寛永九壬申」	1632		柞原八幡社（正面）	大分市八幡	「松平前宰相従三位忠直公御寄附」	利光家記録

(7) 府内藩日根野氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
13	1	×	「慶安弐年五月十五日」	1649	石	柞原八幡社	大分市八幡	「府内藩主日根野吉明公石鳥居奉献」	大分市史

(9) 中津藩主奥平氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
23	10	○	文政十三庚寅夏四月穀日	1839	石	柞原八幡社	大分市八幡（上白木蛙石）	従五位下松平左衛門尉源朝臣近訓	「八」
24	11	×	嘉永二年乙酉秋八月穀日	1849	石	柞原八幡社	大分市八幡（上白木猪落）	従五位下松平左衛門尉源朝臣近訓	「十」鳥居巡拝記
25	12	○	安政二乙卯年四月吉日	1855	石	賀来神社（善親王）	大分市賀来餅田	「奉寄進源朝臣大給近訓」	「十」鳥居巡拝記

(10) 竹田（岡）藩主中川氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
26	1	×	「天明七年四月」	1787		桧原山白山権現	耶馬渓町深瀬中畑	「中津藩主奥平昌高、桧原山正平寺再興の記事中に鳥居あり」	「五」町史、両部鳥居
27	1	×	「寛文四甲辰年」	1664	木	坂原神社	竹田市米納	「中川久清公、鮮なる鳥居を建つ」	「五」享保13書出帳面
28	2	×	「元禄二己巳」	1689		法華院（九重山神社）	久住町坊ケツル	「中川久恒法華院鳥井改造」	「二」直入郡誌
29	3	×	「文化九年十月七日」	1812	石	城原神社	竹田市米納	「藩主（久貫）石鳥居寄進」	「十二」中川史料集

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
14	1	×	「寛文十一辛亥」	1671	(木)	柞原八幡社	大分市八幡（正面）	「松平左近将監源忠明公」	「初」忠昭利光家記録
15	2	○	元禄十一年戊寅九月十五日	1698	石	柞原八幡社	大分市八幡（御山）	松平対馬守昭重	「二」近陣
16	3	○	享保三年戊戌歳四月吉日	1718	石	阿南神社（宇奈岐日女）	臣内町畑田	「府内藩主松平対馬守近禎」	「三」申請書
17	4	△	享保十四己酉年六月朔日	1729	石	柞原八幡社	大分市八幡（一の坂）	従五位下主膳正松平氏源朝臣近貞	「四」
18	5	×	「延享二乙丑」	1745	(木)	柞原八幡社	大分市八幡（正面）	「松平対馬守源近貞公」	「四」利光家記録
19	6	○	宝暦己卯初建文久二壬戌八月（補建）	1759（1862補）	石	柞原社御旅所	大分市浜の市	従五位下松平主膳正源朝臣近房従五位下源朝臣松平左衛門尉近説（補）	「五」「十」近形
20	7	×	「明和元甲申」	1764	(木)	柞原八幡社	大分市八幡（正面）	「松平主膳正近形公」	「五」利光家記録
21	8	×	「安永七戌戌」	1778	(木)	柞原八幡社	大分市八幡（正面）	「松平長門守近儔公」	「六」利光家記録
22	9	○	寛政八丙辰歳春二月穀日	1796	鉄	王子神社	大分市王子町	従五位下松平長門源朝臣近儔	「六」

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納名	備考
30	4	×	「文政十三庚寅」	1830	木	城原八幡社	竹田市米納	「中川久教公木原社に木鳥居寄附」	「十三」直入郡誌

参考　城原村誌に「源為朝久安年間に城原八幡に石鳥居を立給う」とあり。

(11)　時枝領小笠原氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納名	備考
31	1	○	享保十二丁未歳二月十有五日	1727	石	八幡神社	宇佐市上時枝	小笠原大膳源長丘	「二」長和

参考　中津藩主　黒田氏奉納鳥居なし
中津藩主（前・後）小笠原氏奉納鳥居なし

(12)　杵築藩松平氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納名	備考
32	1	×	「寛永九年」	1632		宇佐神宮	宇佐市宇佐	「龍王城主松平重直」	宇佐宮年代記（杵築入城前）
33	2	×	「元禄二年己巳四月吉祥日」	1689	(朱)	住吉神社	杵築市守江	「杵築藩主松平市正源英親」	「初」閑居口號等
34	3	×	「宝永二年十二月九日」	1705	(朱)	住吉神社	杵築市守江	「杵築藩主松平重栄」	「二」国東半島史等
35	4	○	寛延二年己巳十一月吉日	1749	石	白石社（八大龍王社）	武蔵町内田浜	豊後杵築城主源親盈	「五」

(13) 臼杵藩稲葉氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
36	5	△	天明四年甲辰三月吉日	1784	石	金毘羅宮遥拝所	杵築市据場町（→別府市鉄輪の天神社）	従五位下松平対馬守源親盈實母松平房之助源親宝	親盈は「五」親宝はその三男
37	6	△	慶応四年	1868	石	住吉神社	杵築市守江	「先君霊覚公所立歳久毀折因今修治謹再立」と残る柱片にあり、第十一代親信のものと思れる	霊覚公は「二」重栄
38	1	×	「元禄十有五年歳次壬午十一月十五日」	1702	石	八坂神社	臼杵市祇園洲	「従五位下能登守知通」	「六」寺社考
39	2	○	天保六年乙未春三月十有六日	1835	石	白馬渓大神宮	臼杵市前田	「前藩主朝散大夫越智宿祢豊前守雅通」	「十一」臼杵史談
40	3	○	天保六年乙未秋八月吉辰	1835	石	白馬渓大神宮	臼杵市前田	備中守従五位下越智宿祢幾通	「十三」
	参考		「寛保二壬戌年」	1742		福良天満社	臼杵市福良	「参道大鳥居、臼杵藩より建立」	昭和23申請書

(14) 佐伯藩毛利氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
41	1	○	元禄六癸未十二月吉祥日	1693	石	妙見神社	玖珠町帆足	豊州佐伯城主毛利周防守藤原高定	「六」高慶

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
46	2	○	文化二年乙丑春二月吉辰	1805	石	住吉神社	日出町豊岡・上町	従五位下久留島伊豫守越智通嘉	「八」
45	1	×	「元禄二己巳年正月二十五癸巳日」	1689	木	若八幡神社	玖珠町帆足	従五位下出雲守越智宿祢通貞	「三」通清の弟

(15) 森藩久留島氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
44	4	○	寛政三年辛亥　八月	1791	石	五所神社のK善神王社	佐伯市佐伯・岡	當城主従五位下伊勢守藤原朝臣毛利高標	「八」
43	3	○	安永八己亥年八月吉日	1779	石	天満神社	佐伯市佐伯・臼坪	當城主従五位下毛利和泉守藤原朝臣高献	「八」高標
	参考	○	「享保六年」	1721	鳥居額	五所明神社	佐伯市佐伯・岡	「毛利藩主高寛明神大鳥居に「正一位五所大明神」の神位勅額を掲ぐ」	「六」高慶 佐伯市史
			昭和四十一年八月二十六日上部落壊十月十八日復元	(1966)					
42	2	○	元禄十六年己未十二月吉祥日	1703	石	若八幡神社	玖珠町帆足	豊州国佐伯城主毛利周防守藤原高定	「六」高慶
			安政六己未年九月再建	1859				高定六世孫毛利安房守藤原高泰再建	「十一」

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
47	1	○	「慶長十五年」	1610	木	宇佐神宮	宇佐市宇佐	「木下延俊木大鳥居奉納」（享保・文久年間木下侯修理）	「初」宇佐宮年代記
48	2	○	寛永二乙丑暦十一月吉日	1625	石	若宮八幡社	日出町宮町	木下右衛門大夫豊富　朝臣延俊	「初」
49	3	○	寛永十一暦卯月吉日	1634	石	愛宕社（若宮のK）	日出町宮町	木下右衛門大夫豊富　朝臣延俊	「初」
50	4	○	寛永十六暦八月吉日	1639	石	天満社（太郎坊）	日出町上洙江	木下右衛門（ママ）太夫豊富　朝臣延俊	「初」
51	5	○	延宝二甲寅年	1674	石	大神八幡社	日出町二本松	従五位下木下右金吾　豊臣俊長	「三」
52	6	○	延宝六戊午年五月吉日	1678	石	愛宕神社（勝軍地蔵菩薩）	日出町辻堂	従五位下木下右金吾　豊臣俊長	「三」
53	7	○	延宝八年拾壱月吉日	1680	石	八幡八幡社	山香町野原	従五位下木下右金吾　豊臣俊長	「三」
54	8	○	貞享四丁卯二月吉日	1687	石	住吉神社	日出町洙江	従五位下行木下右金吾校尉　豊臣俊長	「三」
55	9	○	元禄二年歳次己巳三月吉日	1689	石	井手八幡社	日出町井手	日出城主右金吾校尉　豊臣俊長	「三」

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
56	10	○	元禄六癸酉年中春日	1693	石	四所神社	山香町日指	日出城主右金吾校尉豊臣俊長	「三」
57	11	○	元禄十一丑年三月吉辰	1697	石	日吉神社（山王権現）	山香町小武	日出城主木下右衛門大夫豊臣俊長	「三」
58	12	○	元禄十一戊寅年十月吉日	1698	石	三島神社（三島大明神）	山香町浦篠	日出城主木下右金吾豊臣俊長	「三」
59	13	×	「元禄十三庚辰年二月吉日」（明治三十有四年再建）	1700	石	槍ケ原天満社	山香町日指	「従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊長」	「三」新鳥居銘
60	14	○	元禄十三庚辰年二月吉日	1700	石	畑（花見）社（白山）	山香町久木野尾	従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊長	「三」
61	15	○	元禄十三庚辰年三月吉日	1700	石	八幡神社	山香町山浦田口	日出城主従五位下右金吾行木下氏豊臣俊長	「三」
62	16	○	元禄十三庚辰年四月吉日	1700	石	天満社	山香町下貫井	日出城主従五位下行木下氏右金吾校尉豊臣朝臣俊長	「三」
63	17	○	元禄十四年二月廿五日	1701	石	天満社	日出町川崎清家	従五位下右金吾校尉豊臣俊長	「三」
64	18	×	元禄十四年辛巳四月吉日	1701	石	唐川八幡社	山香町久木野尾	従五位下木下右金吾校尉豊臣俊長	「三」
65	19	○	元禄十四辛巳年四月吉日	1701	石	下霧八幡社	山香町久木野尾	従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊長	「三」

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
66	20	×	「元禄十四年」	1701	石	三島神社	山香町山浦本篠	「桂峯公初立華表歳久石疲因命新之」	「三」No.86の銘
67	21	×	「元禄十四年」（明治四十年再建）	1701	石	富田八幡社	山香町南端	「日出城主木下俊長侯所奉献之石門也」	「三」新鳥居銘
68	22	○	元禄十五壬午年三月吉日	1702	石	目苅八幡社	日出町南端	従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊長	「三」
69	23	○	元禄十五壬午年三月吉日	1702	石	鹿皮石八幡社	安心院町南端	従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊長	「三」
70	24	×	「元禄十五壬午年三月吉日」	1702	石	天満宮	山香町小嶽	従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊長	「三」申請書
71	25	○	元禄十五年壬午十二月	1702	石	若宮八幡社	杵築市大片平	従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊長	「三」
72	26	○	寶永元甲申年八月吉日	1704	石	八幡神社	山香町西中尾	従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊長	「三」
73	27	○	寶永元甲申年八月吉月	1704	石	白鬚神社（善神王）	山香町廣瀬	日出城主従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊長	「三」
74	28	×	「寶永元甲申吉日」	1704	石	松島神社（塩釜）	山香町内河野	「従五位下行右金吾校尉豊臣俊長」	「三」新鳥居銘
75	29	×	「寶永四丁亥年二月吉日」	1707	石	若宮八幡社	山香町野原	「日出城主従五位下行木下氏右金吾豊臣朝臣俊長」	「三」再建鳥居銘

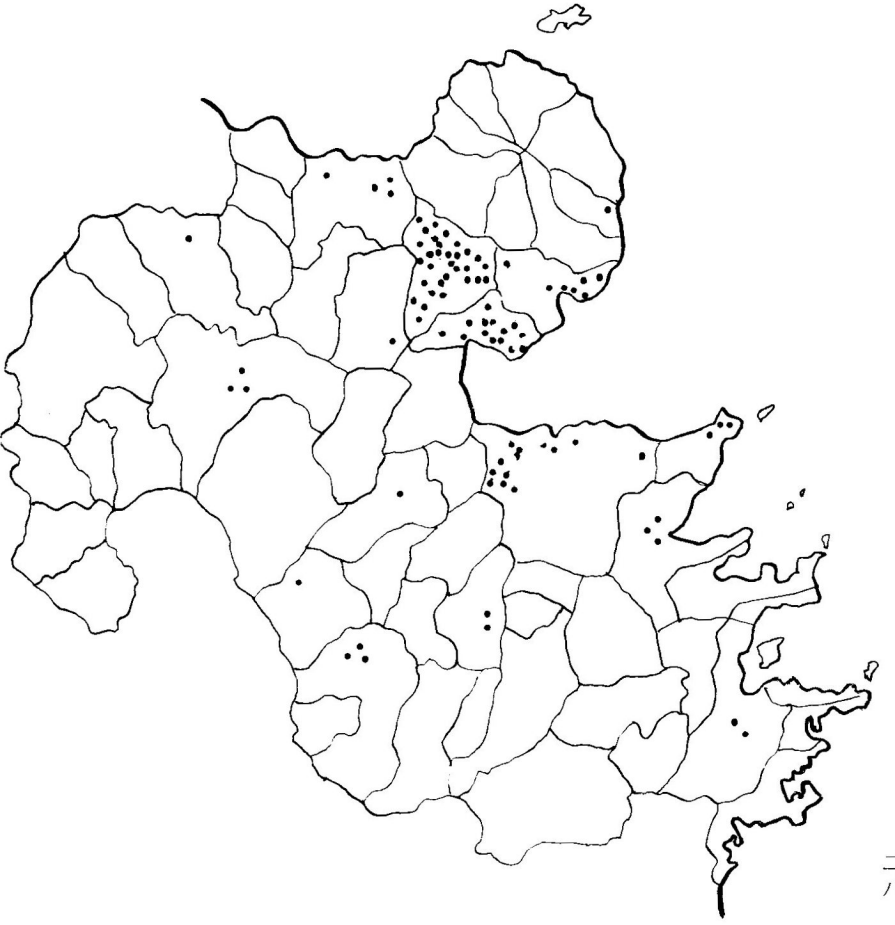
延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
76	30	×	「宝永五年」(昭和三十五年再建)	1708	石	五所神社	山香町野原	「日出領主従五位下木下右金吾豊臣俊量」	「四」申請書
77	31	○	寶永六巳丑年三月吉日	1709	石	貴船神社	山香町内河野	従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊量	「四」
78	32	○	寶永七庚寅年二月吉日	1710	石	寺山八幡社	山香町貫井	朝散大夫□木下右金吾校尉豊臣俊量	「四」
79	33	○	享保四巳亥年四月　日	1719	石	若宮八幡社	日出町宮町	日出城主従五位下守金吾次将豊臣姓木下氏俊量	「四」
80	34	○	享保四巳亥年九月十三日	1719	石	下河内八幡社	山香町日指	日出城主従五位下守金吾次将豊臣姓木下氏俊量	「四」
81	35	○	享保十乙巳年三月吉日	1725	石	亀峯神社(蔵王権見)	日出町辻間	日出城主従五位下守木下右金吾次将豊臣俊量	「四」
82	36	○	寶暦七丁丑年十一月吉日	1757	石	天満神社	日出町海福寺	「従五位下行木下右金吾校尉豊臣俊長」	申請書(氏子は俊長夫人という。)
83	37	○	安永八己亥年正月吉祥日	1779	石	四所神社	山香町広瀬	木下千勝豊臣俊茂	「十一」俊懋のこと
84	38	○	寛政六年甲寅九月	1794	石	若宮八幡社	日出町宮町	朝散大夫守主計頭日出侯豊臣俊懋	「十一」
85	39	△	安政二乙卯歳次九月吉日	1855	石	太田天満社	日出町頭成	従五位下朝散太夫飛騨守豊臣俊程	「十五」

17 立石領木下氏奉納鳥居

延番	No.	現状	年月日	西暦	材料	社名	所在地	奉納者	備考
86	40	○	安政四年丁巳九月	1857	石	三島神社	山香町山浦	従五位下木下飛騨守豊臣俊程	「十五」
87	1	×	「正保四年十一月十五日」	1647	石	馬上八幡社	山香町立石	「立石領主木下延由公石華表一基寄進」	「初」申請書
88	2	×	「寛文三年九月」	1663	石	楠原三島社	山香町吉野渡	「領主木下延知公石華表一門寄附」	「二」申請書
89	3	○	寛文庚戌十二月吉辰	1670	石	馬上八幡社	山香町立石	木下内匠豊臣延知	「二」
90	4	○	文化八辛未年三月吉辰	1811	石	城山天満社	山香町立石	豊臣俊隆	「八」
91	5	○	文化十四年丁丑秋九月	1817	石	龍尾三島社	山香町立石	立石侯豊臣俊芳	「九」

第１図

大分県下の大名鳥居の分布



第二表　大名鳥居の各藩別、年代別、材料別一覧表

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
藩 / 元号	大友氏	藤北氏	加藤氏	細川氏	竹中氏	松平忠直公	日根野氏	府内松平氏	奥平氏	中川氏	時枝小笠原氏	杵築松平氏	稲葉氏	毛利氏	久留島氏	日出木下氏	立石木下氏	計	木製	鉄製
至徳	1																	1		
寛正		1																1		
永禄	1																	1		
慶長			1•	1•	1											1•		4	3	
寛永			1•	3		1•						1•				3		9	3	
正保																	1	1		
慶安							1											1		
寛文								1•		1•							2	4	2	
延宝																3		3		
貞享																1		1		
元禄				1				1		1		1•	1	2	1	17		25	1	
宝永												1				7		8		
享保								2			1					3		6		
延享								1•										1	1	
寛延												1						1		
宝暦								1								1		2		
明和								1•										1	1	
安永								1•						1		1		3	1	
天明									1			1						2		
寛政								10						1		1		3		1
文化										1					1		2	4		
文政								1		1•								2	1	
天保													2					2		
嘉永								1										1		
安政								1								2		3		
慶應												1						1		
計	2	1	2	5	1	1	1	12	1	4	1	6	3	4	2	40	5	91	13	1
木製			2	1		1		4		2		2				1			13	
鉄製								1											1	

第三表　大名鳥居の各藩別、年代別、材料別一覧表

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
藩 / 神社	大友氏	藤北氏	加藤氏	細川氏	竹中氏	松平忠直公	日根野氏	府内松平氏	奥平氏	中川氏	時枝小笠原氏	杵築松平氏	稲葉氏	毛利氏	久留島氏	日出木下氏	立石木下氏	計
八幡	1	1		3		1	1	9		3	1	1		1	1	19	2	44
天満														1		7	1	9
住吉												3			1	1		5
三島																3	2	5
早吸姫			2	1														3
春日					1											2		3
善神王	1							1								1		3
伊勢													2					2
日吉				1												1		2
向山									1							1		2
五所														1		1		2
妙見														1				1
八坂													1					1
琴平												1						1
愛宕																1		1
八大竜王												1						1
貴船																1		1
熊野								1										1
宇奈岐姫								1										1
塩釜																1		1
蔵王																1		1
九重山										1								1
計	2	1	2	5	1	1	1	12	1	4	1	6	3	4	2	40	5	91

第四表　杵築領の奉納者でない藩主名が出ている鳥居銘

No.	現状	年月日	西暦	領主名	神社	所在地	備考
1	○	元禄十三庚辰天十二月吉旦	1700	當御領主松平丹後守重賢公	嚴島社	国東町北江	「二」重栄
2	○	元禄十三庚辰六月吉旦	1700	當御領主松平兵庫頭寛	八坂社	国東町深江	分地領主
3	○	元禄十三年庚辰天二月吉祥日	1700	御領主松平志摩守源朝臣重實公	歳神社	安岐町両子	「二」重栄
4	○	元禄十四年辛巳四月吉祥日	1701	松平日向守源朝臣重實公	宮畑社	安岐町富清	「二」重栄
5	○	元禄十六年癸未之二月廿一日	1703	御領主松平日向守重賢公	石丸神社	大田村石丸	「二」重栄
6	○	享保三戊戌年二月吉祥日	1718	御領主松平市正源朝臣親純	山神社	安岐町諸田	「四」
7	○	享保六辛丑仲冬吉日（文政八再建）	1721	地頭松平圖書源朝臣重矩公	日吉社	安岐町小俣	分地領主
8	○	享保十二年丁未天十二月吉祥日	1727	松平圖書源朝臣重實公	日吉社	安岐町中野	分地領主
9	○	享保十二未天　八月吉祥日	1727	領主松平圖書頭源朝臣重矩公	龍頭社	安岐町小俣	分地領主
10	○	明和九年壬辰霜月吉日	1772	松平筑後守様御代	三社権現（廃）	大田村俣水、カジヤ	「六」親貞
11	○	文化十四丑年十一月	1817	松平信□守源朝臣親明公	白木原社	大田村白木原	「八」
12	○	文化十二己丑年林鐘吉祥	1829	松平河内守親良公	貴船社	國東町浜崎	「九」
13	△	（年月日不明）		天下泰平國家安全 別松平重□公御武運長久	御祖社	國東町富来浦	

第五表　藩主を祭神とする神社一覧表

No.	社名	祭神	所在地	備考
1	奥平三所神社	奥平貞能、信昌、家昌	中津市公園地	「初」、「二」、「三」
2	杵築神社	松平重休	杵築市杵築	「三」
3	青筵神社	松平英親、重休、木下俊長	杵築市城内	橋本五郎右衛門を加えて、青筵の四恩人を祀る。「初」、「三」
4	横津神社	木下俊長	日出町横津	「三」
5	松榮神社	松平近正、一生	大分市城跡北堀端	府内松平初代忠昭の曽祖父（関ケ原役に戦死）と祖父。
6	太刀振神社	中川清秀、秀政、秀成	大分市三佐、広小路	「初」（賤ケ岳に戦死）、「二」（朝鮮役に戦死）、「三」
7	出水神社	細川藤孝、忠興、忠利、重賢	大分市鶴崎、東浦	「初」「二」、「三」、「六」
8	出水神社	（仝　前）	大分市鶴崎、栄尾	
9	五所神社	織部（日根野）吉明	大分市野田	
10	山神社	日根野吉明	庄内町長宝、五福	初瀬井路の取水口
11	臼杵護國神社、	稲葉良通以下歴代	臼杵市丹生島	「初」以下
12	毛利神社	毛利高政	佐伯市鶴谷	「初」
13	中川神社	（6に同じ）	竹田市拜田原	
14	入山神社	中川久清	久住町有氏、鳥居原	「五」。来田見神社に合祀。

参考　加藤清正を祭る熊本社、加藤社系が具下に三十社以上あり、日蓮宗寺院に清正公殿多し。